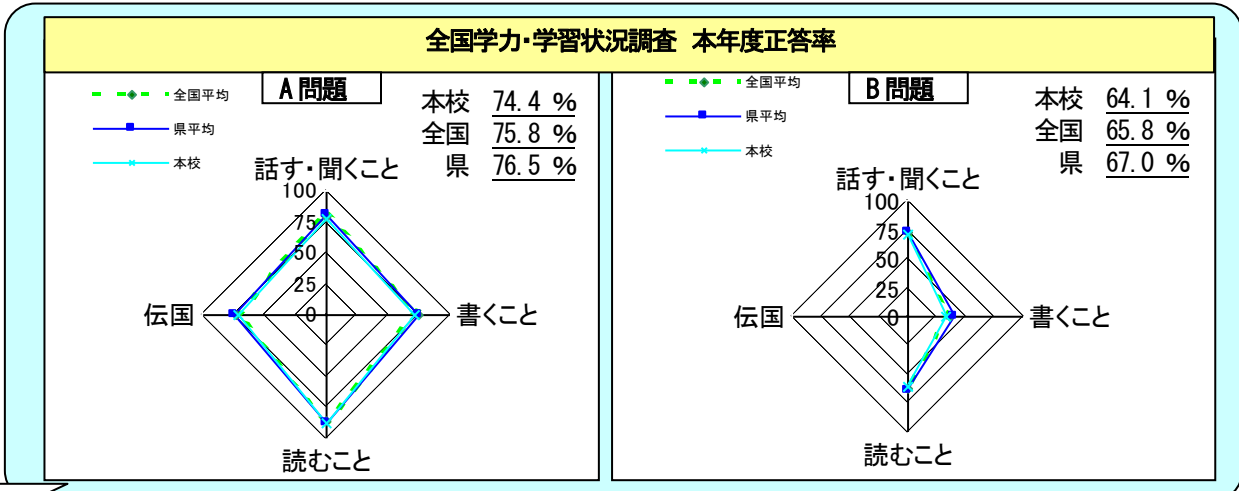
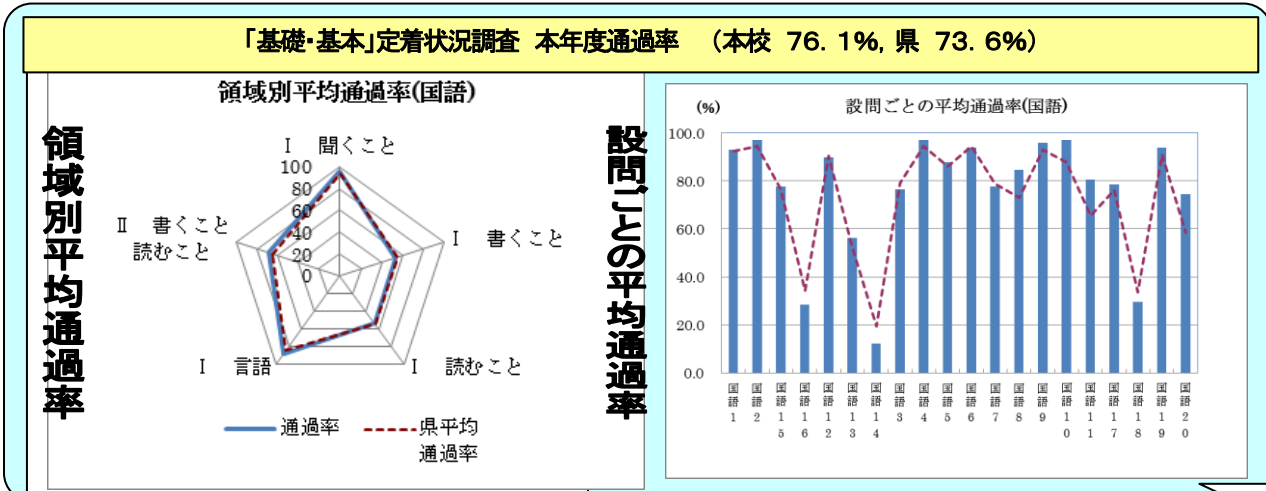


# 指導方法等の改善計画について〔国語〕

呉市立横路中学校



**重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査**

◎ 複数の資料から目的に応じて文章中の必要な情報を読み取り, 根拠を明確にして記述することに課題がある。(設問 五2 通過率 29.6%, 県 33.8%)

◇ 提示されている複数の資料を使ってそれを根拠とし, 自分の考えを書くことができていない。(B 設問 2三 通過率 15.9% 県 24.8%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

◎読みもの教材を扱う際に, 単元を貫いた言語活動を設定し, 自分の意見を述べさせる。その際, 根拠の部分に線を引かせる指導を行っていく。

◇ 自分の考えを述べるときには根拠を明確にする必要があることを繰り返し指導し, 自分の考えを書く場面を多く設定していく。

※中学校区で作成した「読むこと」(説明文) のカリキュラム表を基に, 系統的な指導を行う。目的に応じて複数の資料を読み取ったり, 自分の考えを根拠を明確にして書いたりする指導に重点を置く。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年生 期末試験		1年生 H27「基礎・基本」	1・2年生 学年末試験
目標値				45%		35%	40%・55%
実施後数値				54.9%		55%	58.4%・57%

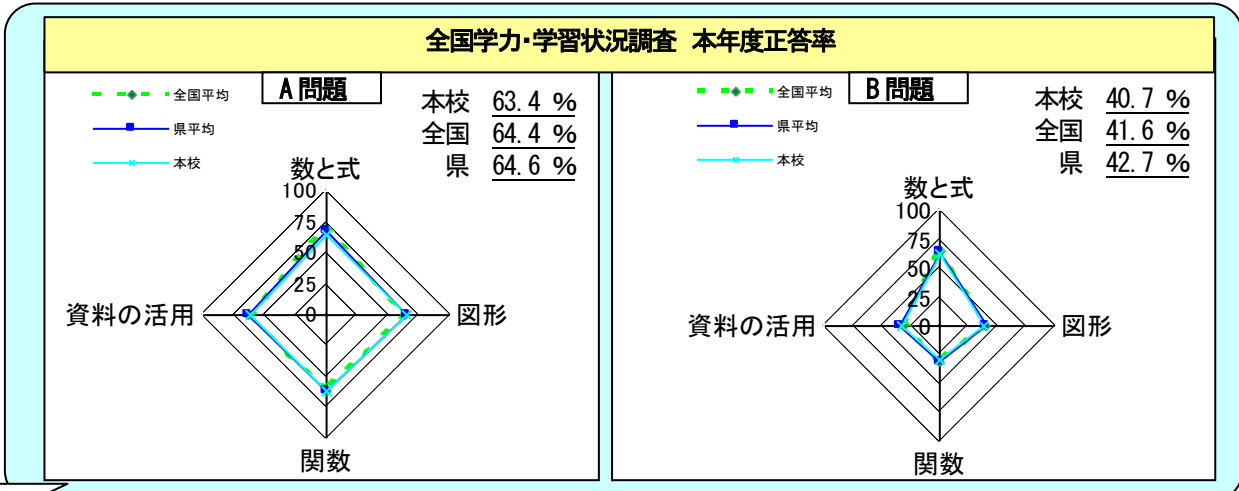
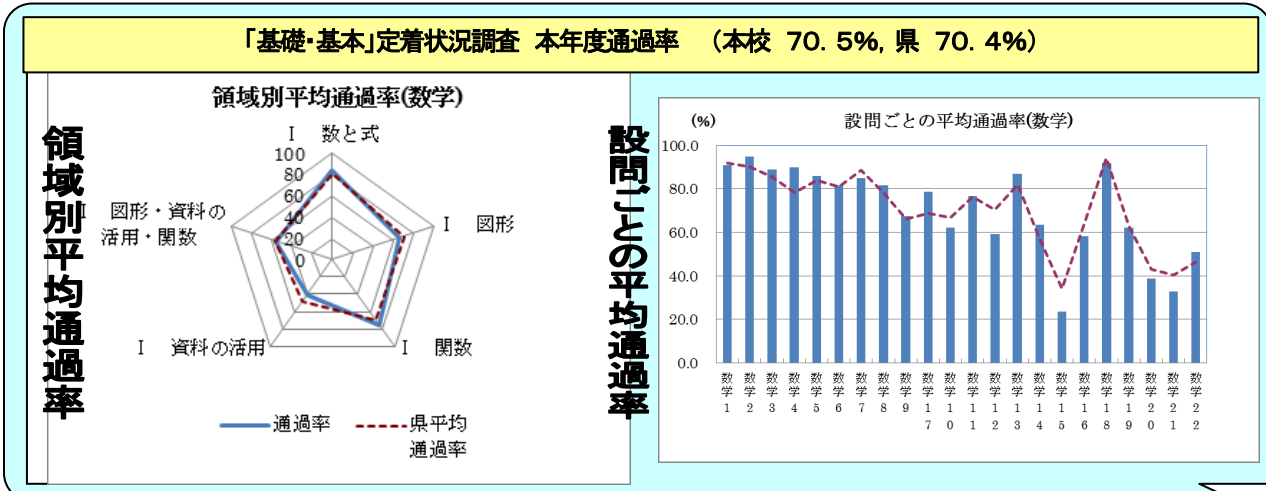
  

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年生 中間試験		3年生 期末試験			
目標値		35%		40%			
実施後数値		38%		40.7%			

**来年度に向けて**

「読むこと」「書くこと」のそれぞれの場面で自分の考えを表現する際に, その根拠を明確にしていく作業を繰り返し指導して授業を展開していくことを意識する必要がある。

# 指導方法等の改善計画について〔数学〕



**重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査**

◎グラフの特徴に着目し、「yはxに比例している」理由を説明する問題に課題がある。原点を通ることを記述せず、点が一直線上に並んでいることのみを記述していた生徒の割合が41.8% (通過率32.7%)

◇与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることが判断できていない。(通過率31.8%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

◎比例の式の特徴を暗記させるだけでなく、他の関数との違いを表、式、グラフと関連させながら、その特徴について表現し合う活動を取り入れる。「原点を通る」というグラフの特徴は、表においては $x=0$ のときの $y$ の値が0であること、式においては定数項が0であることを表していることも、生徒の表現活動の中から導き出し、活用可能な知識とさせる。

◇いろいろな関数関係の式を区別するとき、単に一般的な形の式の比較だけでなく、比例定数などが分数や小数の場合など、具体的な式をあげながら区別する必要がある。また、対応表やグラフなど関連づけながら学習することで関数の特徴などの学習を深めていきたい。

※授業では答えだけでなく、その理由を書いたり説明したりする場面を増やす。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年期末試験		1年基礎基本	1・2年学年末試験
目標値				60%		60%	70%
実施後数値				58%		実施できず	75%

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年中間試験			3年学年末試験		
目標値		50%			60%		
実施後数値		52%			79%		

**来年度に向けて**

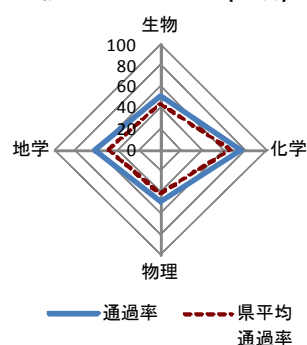
関数の領域では、「表、式、グラフ、それぞれの考え方で解けた」で終わるのではなく、それらの考えが関連していることを授業のまとめでしっかり取り上げる必要がある。

# 指導方法等の改善計画について〔理科〕

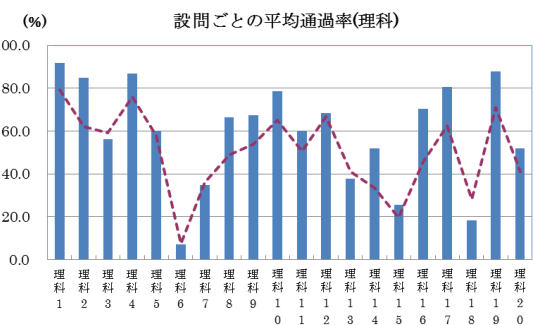
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.3%, 県 50.2%)

領域別平均通過率

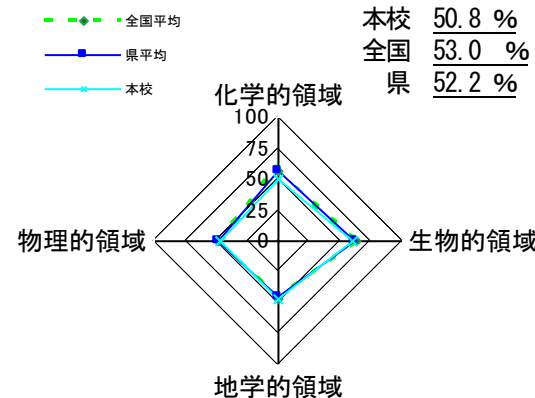
領域別平均通過率(理科)



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率



## 重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎観察結果を比較して、相違点を見いだすことに課題がある。  
(設問3(1) 通過率 7.1%, 県 7.4%)
- ◎実験器具の正しい使い方が身につけていない。  
(設問3(2) 通過率 34.7%, 県 36.0%)
- ◇風向計の使い方, 天気記号の風向の読み取りを正しく理解できていない。  
(設問2(2) 通過率 37.0%, 県 49.2%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

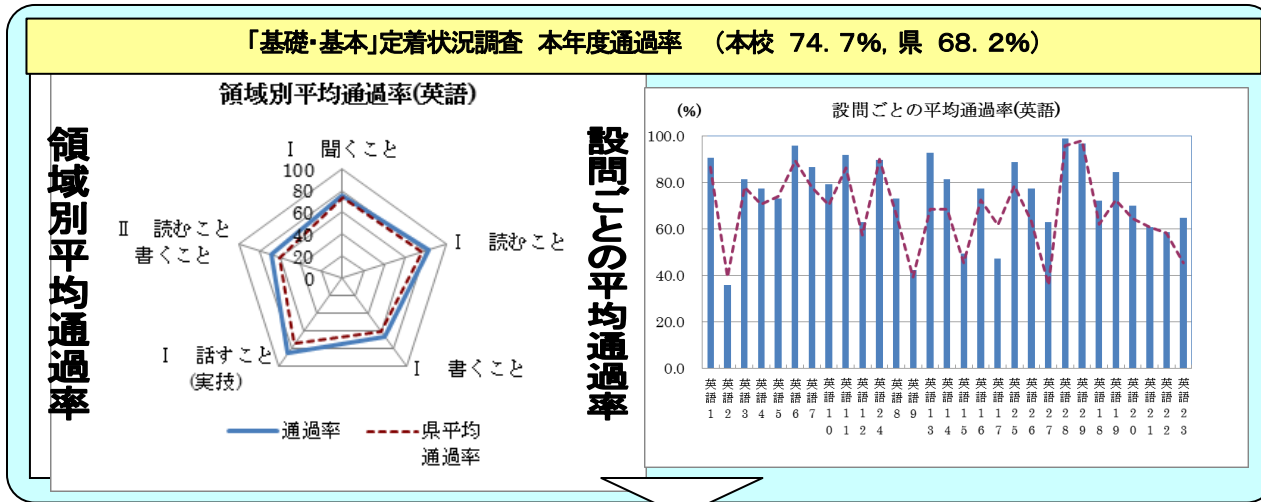
- ◎観察結果を比較し、共通していることと相違していることを見つけ、検討していく活動を取り入れた授業を実施する。
  - ◎実技テスト等によって全員が基本的な実験器具の操作方法を身につけるようにする。
  - ◇授業の始まりに、その日の広島県の天気記号を見せ、天気、風向、風力を読み取る練習や、その場合の風向計の向きを考える取組を通して、観測技能を身につけるようにする。
- ※実験や観察したことを、既習事項と関連づけて、根拠を明らかにして考察する場を設定する。

◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生期末試験		2年生中間試験	1年生H27「基礎・基本」	2年生学年末試験
目標値			40%		50%	55%	60%
実施後数値			53%		52%	30%	55%

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年中間試験			3年学年末試験		
目標値		50%			70%		
実施後数値		48%			60%		

## 来年度に向けて

実物観察を取り入れ、学習した内容について実感をともなった知識として理解させる。班での話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、再検討したりする。またその考えを、はっきりと説明させる場面を設ける。



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

- ◎① 聞くことにおいて助動詞に着目しすぎて、慣用的な答え方をする場面を見逃してしまう。(設問 1 2 通過率 36.1%)
- ◎② 書くことにおいて What が名詞と結びついて疑問形容詞になるときの文の決まりが定着していない。(設問 5 2 通過率 36.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎① 疑問文に使われている助動詞と、同じものを使って答えるという基本的なルールに当てはまらない日常会話の慣用的な表現に気づく余裕がないことが原因と思われる。疑問文とその答え方の学習を徹底するとともに、よく使われる慣用的な表現についても、併せて練習させることで定着を図る。
  - ◎② 疑問詞は疑問文の先頭に来ることについては定着しているので、疑問代名詞になるときに疑問形容詞になるときの語順の違いをプリント学習で文の決まりを再確認しながら、what color や what sport など会話での使用頻度の高いものについては文単位で暗唱させる。
- ※ 授業中に英語を使ったり聞いたりする割合を高めることで、英語の会話に対する苦手意識を減少させる。

◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 休み明けテスト	2年生 中間テスト		2年生 期末テスト	2年生 中間テスト		2年生 学年末テスト
目標値	40%	45%		50%	55%		60%
実施後数値	45%	47%		51%	55%		61%

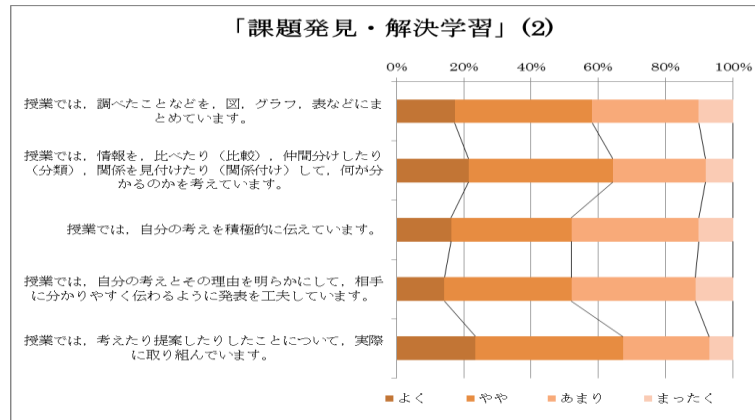
◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 休み明けテスト	2年生 中間テスト		2年生 期末テスト	2年生 中間テスト		2年生 学年末テスト
目標値	50%	55%		60%	65%		70%
実施後数値	55%	56%		58%	61%		62%

来年度に向けて

生徒にとって、パターンをつかみにくい英作文の指導に力を入れる必要がある。授業の工夫とあわせて、日々の家庭学習の課題も改善し毎日の積み重ねによって定着を図る。

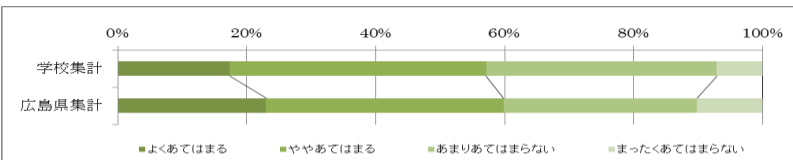


## (1) 生活・学習

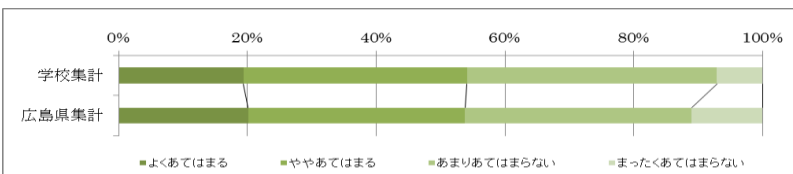


## (2) 教科

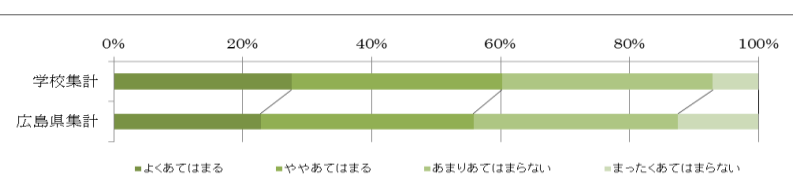
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



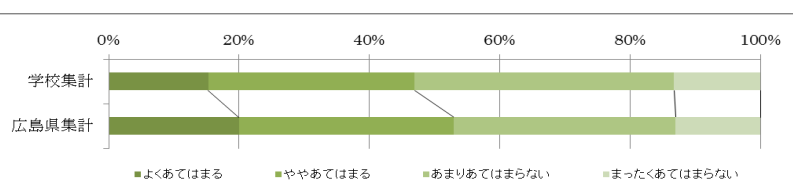
数学の授業では、自分の解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。(肯定的生徒の割合 52%, 県 64.5%)	学活、道徳でお互いを認め合う活動を積極的に仕組む。ペア、グループ活動の時間を確保し、発表に繋げる。	2	65%	アンケート	12月	66%	14%
全国	自分には、よいところがあると思いますか。肯定的生徒の割合: 本校 59.8%, 広島県 74%, 全国 68.1%	自己肯定感・自己有用感を確信できる場面(活躍の場)を全員に提供し、自信をもたせ公表し、評価する。指導と評価の一体化を図る。	3	74%	アンケート	12月	70%	10%

	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本	国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。(57.1%)	2	65%	アンケート	12月	68%	11%
	全国	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。(9.3%)	3	30%	アンケート	12月	29%	20%
数学	基礎・基本	数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。(54.1%)	2	60%	アンケート	12月	65%	11%
	全国	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか。(91.6%)	3	95%	アンケート 授業観察	9月～12月	96%	4.4%
理科	基礎・基本	理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。(60.2%)	2	70%	アンケート	12月	67%	7%
	全国	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。(42%)	3	70%	アンケート 授業観察	9月～12月	65%	23%
英語	基礎・基本	英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。(46.9%)	2	60%	ワークシート 授業観察	9月～3月	63%	16%